

# 第76期 事業報告書

平成17年2月1日から平成18年1月31日まで



## 当期の概況

当社は、チョコレート・キャンディ・焼菓子・洋生菓子などの製造・販売を主な事業としています。また、直接販売を基本方針とし、主に全国の有名百貨店で販売しています。

さらに、各地に直営店、喫茶およびレストラン店舗を設けて、心を豊かにする商品とサービスを提供しています。



## 菓子部門

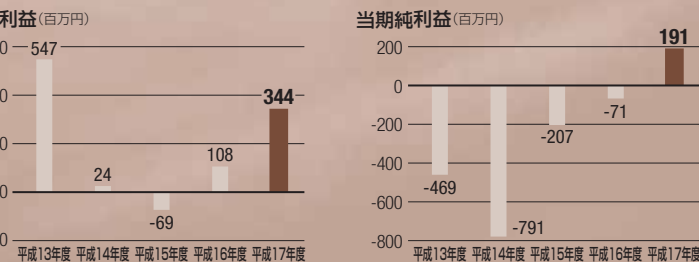
干菓子はイベントの成功、ギフト・催事商品の早期展開、デパート向け商品の積極的展開等により前年度を上回る状況で推移しました。洋生菓子では、半生菓子が好調を維持し、期間・店舗限定商品の積極的投入により好調に推移しました。

その結果、菓子部門の売上高は23,016百万円(前期比5.2%増)となりました。

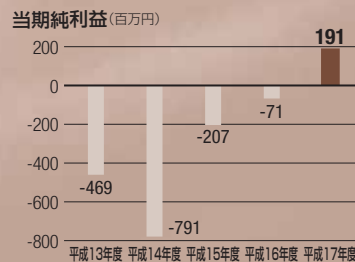
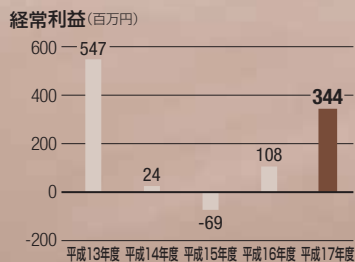
## 喫茶・レストラン部門

新規出店、既存店改装により集客力が向上しました。また、メニュー再編により客単価が上昇し、集客イベントの効果なども寄与し、売上は好調に推移しました。

その結果、喫茶・レストラン部門の売上高は1,850百万円(前期比2.1%増)となりました。



## 財務ハイライト



## 株主のみなさまへ

# さらなる企業価値向上をめざします。

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。当社第76期の業績をご報告するにあたり、皆様一言ごあいさつ申し上げます。

当期は「すべてはおお客様の笑顔のために」を徹底し、全社的なCS(お客様満足)活動の展開により、既存店の売上獲得とともに、販売拠点の拡充に注力いたしました。イベント商品の強化や新たなお客様ニーズに対応した新商品・新業態の積極的展開も成果を結びました。一方、生産体制の再構築により品質向上とコスト削減を継続し、市場競争力の強化に努めてまいりました。加えて、構造改革の継続により、販売費・一般管理費のコスト低減を図りました。

その結果、売上高は24,866百万円(前期比5.0%増)、経常利益は344百万円(前期比218.6%増)、当期純利益は191百万円(前期は71百万円の損失)となり、9期ぶりの増収増益を達成することができました。なお、利益配当金につきましては、当期業績と今後の事業展開に伴う内部留保、利益還元原資の蓄積などを総合的に判断し、1株につき4円とさせていただきます。



取締役会長  
西村 健男



取締役社長  
川喜多 佑一

当社の新3ヵ年中期経営計画『プロジェクトM』の初年度にあたる当期の売上高が、第2年度の売上目標に近い実績を達成し、幸先のよいスタートとなりました。今後も数値計画の必達はもちろん、中長期的な経営方針である「持続的成長と構造改革の加速による高効率経営の達成」に向けて取り組んでまいります。

次期(平成19年1月期)の見通しといたしましては、所得環境の好転により個人消費の伸びが期待されますが、一方において消費者嗜好の高級化・本物志向化、商品寿命の短命化等がますます進行し、菓子全体の総需要は伸び悩みが続くものと思われます。

このような環境のなか、平成19年1月期は売上高25,300百万円(前期比1.7%増)、経常利益500百万円(前期比45.0%増)を見込んでおりますが、遺憾ながら減損損失の計上等により当期純利益は50百万円(前期比73.9%減)となる予定です。なお、創業75周年を記念して、1株につき1円の記念配当を期末に予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

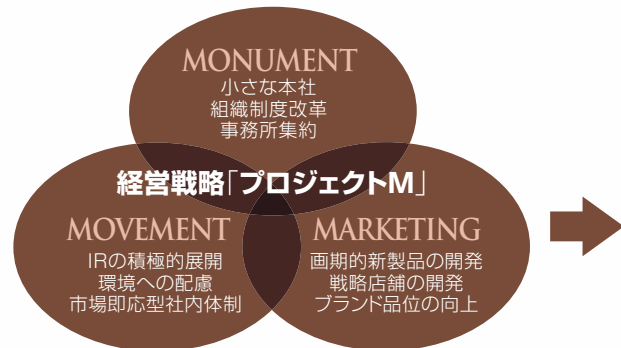
## 将来の見通しに関する注意

この事業報告書に記載されている当社の現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、一般的経済状況、製品需給や市場価格の状況、市場での競争の状況、為替の変動等のさまざまな要因により、これら見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。この事業報告書の内容とは異なる可能性があることをご承知おきください。

## 中長期ビジョン

# 持続的成長と構造改革の加速による 高効率経営の達成をめざします。

当社では中期経営計画「プロジェクトM」を当期からスタートさせました。3つのM(右図参照)をコンセプトに、4つの経営戦略テーマを掲げ、2008年度の目標数値達成をめざすものです。同計画の初年度である当期に開始した取り組みの一部を以下にご報告します。



### 3つのMが解決する モロゾフの経営戦略テーマ

- 1 新業態・新チャネルの開発展開の加速による売上・利益の確保
- 2 商品品質、サービス品質の安定向上による安全・安心の確保
- 3 顧客第一主義の徹底によるブランド品位の向上
- 4 環境への配慮、IRの積極的取組による企業価値の向上

2005年1月期実績 2008年1月期目標

売上高	23,689	→	25,400	百万円
営業利益	96	→	700	百万円
R O E	-0.61	→	6%	

## テーマ1 新業態・新チャネルの 開発展開の加速による売上・利益の確保

当社の基本商品(チョコレート、チーズケーキ、プリン)の売上向上に努めるとともに、戦略の基軸の一つである「百貨店市場での高質ブランド育成」によるブランド価値向上に取り組みました。また、お客様の多様な購買ニーズにお応えするため、モロゾフチョコレートショップやカフェ コンデイトライ・ランドルトをオープンするなど、新業態・新チャネルの開拓にも挑戦し、新たな顧客層開拓に努めています。

今後は、「食品の安全」に対する関心の高まりなどにも対応していきます。



◀モロゾフチョコレートショップ  
おなじみの商品と、バリエーションに富んだチョコレートを揃えた新しい形のお店、モロゾフチョコレートショップ。

カフェ コンデイトライ・ランドルト▶  
心地よい空間で、オーストラリア国家公認マイスターによるできたてのウィーン菓子とコーヒーが楽しめるカフェ コンデイトライ・ランドルト。



## テーマ2 商品品質、サービス品質の 安定向上による安全・安心の確保

当社は、品質マネジメントシステム(ISO9001認証取得)に基づく全社品質保証体制を確立しています。生産・供給面では、市場対応力を強化するために生産体制を再構築し、チョコレート新プラントの稼働率を高め、チルド・洋生菓子生産ラインの集約と効率化を図りました。また新技術の導入によって、さらなる品質の安定向上を図るとともに、製造原価低減に努めています。組織と人員の見直しによる「小さな本社」の構築も推進中。今後も企業活動の効率化を追求していきます。



◀新社屋写真  
2005年11月に竣工した六甲アイランドオフィス。2006年3月20日より本格稼働しました。

六甲アイランド工場プリン製造ライン▶  
チルド・洋生菓子生産ラインの集約に伴い六甲アイランド工場に構築したプリン製造ライン。



## テーマ3 顧客第一主義の徹底による ブランド品位の向上

CS(お客様満足)活動のいっそうの強化により、「全てはおお客様の笑顔のために」を徹底しています。

また、分散していた開発・間接機能を1カ所に集約するため、生産本部の間接機能、マーケティングセンター、本社・関西支店を順次、六甲アイランドオフィスに移転しました。これで生産・営業・開発・管理が一体となってスピーディーに業務を執行できる体制が整いました。新技術の導入による画期的な新商品の開発、新業態開発改善、高質販促活動を加速し、ブランド品位の向上を図ります。



◀アルカディア  
1971年の発売開始以来、改良を重ねてきたモロゾフを代表するロングセラー商品、アルカディア。

新製品の開発▶  
モロゾフの古き良き伝統を守りながらも、新しい発想・着想で、果敢に新製品を開発しています。



## テーマ4 環境への配慮、IRの 積極的取組による企業価値の向上

六甲アイランドオフィスで水蓄熱利用冷暖房や屋上散水装置を採用し、電力消費量の削減に努めるなど地球環境に配慮しています。また、株主・投資家の皆様とコミュニケーションを図るためのIR活動にも積極的に取り組み、企業価値の向上と高効率経営の達成をめざしています。

さらに、企業倫理を重視した経営を進めるため、「企業倫理ガイドライン」を制定し、その徹底に努めています。また、全取締役、監査役、主要部門長からなる経営管理会議を隔月で開催し、業務の進捗状況の確認、分析および具体的な対策の検討をしています。



◀第75回定時株主総会  
平成17年4月27日、神戸で開催し、187名の株主様にご出席いただいた株主総会。

省エネ屋上散水装置▶  
水を流して直射日光による屋根の温度上昇を抑える、六甲アイランドオフィスの省エネ屋上散水装置。



## 財務諸表

### 貸借対照表

科 目	単位:千円	
	当期 (平成18年1月31日現在)	前期 (平成17年1月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>6,923,740</b>	<b>7,065,625</b>
現金及び預金	445,866	667,152
受取手形		18,469
売掛金	3,589,638	3,589,893
有価証券	400,032	200,017
製品	1,616,099	1,398,706
原材料	380,450	250,660
仕掛品	251,795	176,663
貯蔵品	57,558	62,934
短期貸付金	19,561	33,000
未収入金	49,196	561,557
前払費用	46,241	33,931
未収収益	78	66
繰延税金資産	65,983	67,134
仮払金	37,239	44,038
貸倒引当金	△ 36,000	△ 38,600
<b>固定資産</b>	<b>13,643,409</b>	<b>12,325,866</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>8,861,262</b>	<b>8,396,169</b>
建物	2,404,910	2,044,190
構築物	107,834	96,712
機械装置	1,097,342	1,051,961
車輛運搬具	6,918	7,987
工具器具備品	634,911	575,904
土地	4,556,268	4,556,268
建設仮勘定	53,077	63,145
<b>無形固定資産</b>	<b>132,533</b>	<b>137,409</b>
電話加入権	33,491	33,491
その他の権利金	4,414	1,056
ソフトウェア	94,626	102,861
<b>投資その他の資産</b>	<b>4,649,613</b>	<b>3,792,287</b>
投資有価証券	2,621,873	1,561,853
出資金	50,358	50,328
長期貸付金	84,141	106,162
破産・更生債権等	3,571	38,575
保証預け金	327,140	335,205
敷金	201,157	264,101
生命保険料積立金	168,824	205,148
長期前払費用	31,664	62,171
前払年金費用	1,164,581	1,206,140
貸倒引当金	△ 3,700	△ 37,400
<b>❖ 1 資産合計</b>	<b>20,567,150</b>	<b>19,391,491</b>

科 目	単位:千円	
	当期 (平成18年1月31日現在)	前期 (平成17年1月31日現在)
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>6,711,708</b>	<b>6,428,338</b>
支払手形	2,248,118	1,681,135
買掛金	975,026	1,408,725
短期借入金	1,975,000	1,975,000
未払金	95,505	84,446
未払事業所税	33,526	31,812
未払法人税等	112,100	62,700
未払消費税等	218,494	178,938
未払費用	732,754	689,527
預り金	32,666	31,633
賞与引当金	288,515	284,420
<b>固定負債</b>		
<b>固定負債</b>	<b>1,998,679</b>	<b>1,301,064</b>
繰延税金負債	993,140	636,109
再評価に係る繰延税金負債	793,021	428,133
預り保証金	11,876	14,876
退職給付引当金	50,871	51,005
その他の固定負債	149,770	170,940
<b>負債合計</b>	<b>8,710,387</b>	<b>7,729,403</b>
<b>(資本の部)</b>		
<b>資本金</b>	<b>3,737,467</b>	<b>3,737,467</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>3,918,352</b>	<b>3,918,352</b>
資本準備金	3,918,352	3,918,352
<b>利益剰余金</b>	<b>3,216,084</b>	<b>3,170,643</b>
利益準備金	614,883	614,883
任意積立金	2,300,000	2,500,000
別途積立金	2,300,000	2,500,000
<b>当期末処分利益</b>	<b>301,200</b>	<b>55,759</b>
<b>土地再評価差額金</b>		
<b>土地再評価差額金</b>	<b>264,099</b>	<b>628,986</b>
<b>株式等評価差額金</b>	<b>777,579</b>	<b>251,363</b>
<b>自己株式</b>	<b>△ 56,821</b>	<b>△ 44,726</b>
<b>資本合計</b>		
<b>資本合計</b>	<b>11,856,762</b>	<b>11,662,088</b>
<b>負債及び資本合計</b>		
<b>負債及び資本合計</b>	<b>20,567,150</b>	<b>19,391,491</b>

### 損益計算書

区分	科 目	単位:千円		
		当期 (平成17年2月1日から 平成18年1月31日まで)	前期 (平成16年2月1日から 平成17年1月31日まで)	
<b>(営業損益の部)</b>				
	1売上高	24,866,998		23,689,540
	2売上原価			
	期首製品棚卸高	1,398,706		1,182,487
	当期製品製造原価	11,904,193		10,032,265
	他社製品仕入高	1,653,748		2,862,932
	他勘定受入高	25,861		43,938
	計	14,982,510		14,121,624
経常	他勘定振替高	168,691		173,112
	期末製品棚卸高	1,616,099		1,398,706
	計	1,784,790	13,197,719	1,571,819
損	売上総利益	11,669,279		11,139,735
益	3販売費及び一般管理費	11,320,278		11,043,160
	営業利益	349,000		96,574
<b>(営業外損益の部)</b>				
部	1営業外収益			
	受取利息	4,695		5,397
	受取配当金	27,358		24,304
	投資有価証券売却益	-		213
	雑収入	88,045	120,099	101,990
	2営業外費用			
	支払利息	31,265		31,659
	投資有価証券売却損	-		300
	雑損失	93,039	124,304	88,313
	経常利益	344,795		108,207
<b>(特別利益)</b>				
	投資有価証券売却益	-		1,225
	償却債権取立益	2,746		-
	貸倒引当金戻入額	6,100	8,846	981
<b>(特別損失)</b>				
	固定資産除売却損	97,350		107,304
	投資有価証券売却損	2,502	99,853	-
	税引前当期純利益		253,788	3,110
	法人税・住民税及び事業税	62,473		62,477
	法人税等調整額	2	62,475	11,769
	当期純利益又は純損失(△)		191,312	△ 71,136
	前期繰越利益		109,888	145,638
	土地再評価差額金取崩額		-	△ 18,742
	当期末処分利益	301,200		55,759
<b>❖ 2 特別損益の部</b>				

### 利益処分

科 目	単位:円
<b>当期末処分利益</b>	<b>301,200,851</b>
これを次のとおり処分します。	
<b>利益配当金</b> (1株につき4円)	<b>145,702,068</b>
<b>次期繰越利益</b>	<b>155,498,783</b>

### POINT

#### ❖ 1 資産合計

当期末の総資産残高は、前期末に比較して1,175百万円増加し、20,567百万円となりました。主たる要因として、投資有価証券の増加、新事務棟の建設等に伴う固定資産の増加が挙げられます。

#### ❖ 2 経常利益、当期純利益又は純損失

大幅な増収に加え、製造稼働率の向上、人件費の抑制、経費の圧縮など経営効率化を推進しました結果、経常利益は344百万円(前期比218.6%増)、当期純利益は191百万円(前期は71百万円の損失)となり、当初の目標利益額を大幅に上回る成果を上げることができました。

## TOPICS

### 2005年度の新商品

春の期間限定商品で桜色したサクランボ風味の「さくらんぼのプリン」、チーズケーキキャンペーン期間中の限定商品「白いデンマーククリームチーズケーキ」、メレンゲタイプのクッキーに紅茶、コーヒー、チョコレートの香りのクリームをサンドした「クリームクッキーズ」などを新発売しました。



### 厚生労働大臣表彰(優秀賞)を受賞

高齢者雇用の工夫事例を競う2005年「高齢者雇用開発コンテスト」で、初めての参加ながら、厚生労働大臣表彰(優秀賞)を受けました。



### 「こうべ男女いきいき事業所」 として表彰受賞

神戸市から、職場における男女共同参画の取り組みを評価され、2005年度「こうべ男女いきいき事業所」として表彰されました。



## 会社概要 (平成18年1月31日現在)

商号 モロゾフ株式会社 設立 昭和6年8月8日  
 資本金 3,737,467,631円 従業員数 673名  
 事業内容 洋菓子製造販売、喫茶・レストラン営業  
 上場証券取引所 大阪市場第1部・東京市場第1部

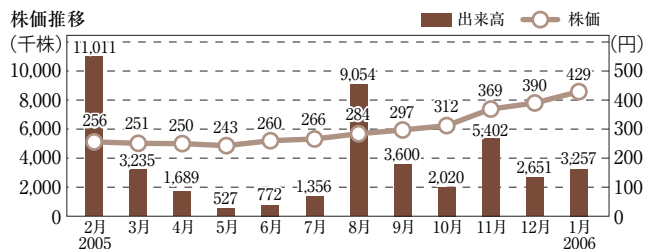
事業所 営業所●本社(神戸)・六甲アイランドオフィス(神戸)・東京支店・  
 (平成18年4月27日現在) 名古屋支店・関西支店(神戸)・福岡支店・北海道営業所(札幌)  
 工場●神戸御影工場・西神工場(神戸)・六甲アイランド工場(神戸)・船橋工場(千葉県)・福岡工場・札幌工場・仙台工場

役員 代表取締役会長 石原 建男  
 (平成18年4月27日現在) 代表取締役社長 川喜多 佑一 (営業本部長)  
 代表取締役副社長 松村 有芳 (経営企画グループ長)  
 常務取締役 齊藤 進 (生産本部長)  
 取締役 伊庭 哲雄 (マーケティングセンター長)  
 山本 茂伸 (経理グループ長)  
 尾崎 史朗 (人事総務グループ長)  
 川窪 一明 (営業本部副部長兼東京支店長)  
 常勤監査役 渡邊 一司  
 岡橋 元明  
 監査役 久保 昭  
 高橋 純子

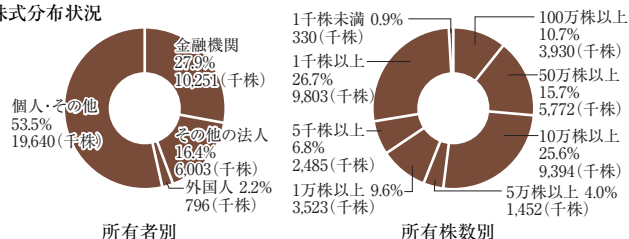
(注) 監査役久保昭および高橋純子の両氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条1項に定める社外監査役であります。

## 株式の状況 (平成18年1月31日現在)

会社が発行する株式の総数 120,000,000株  
 発行済株式の総数 36,692,267株  
 株主数 9,690名  
 うち単元株主数 7,575名



### 株式分布状況



## 株主メモ

決算期 1月31日  
 定時株主総会 4月中  
 利益配当金 1月31日の最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主様または登録質権者様に対し、お支払いいたします。  
 中間配当金 取締役会の決議により中間配当を行う場合は、7月31日の最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主様または登録質権者様に対し、お支払いいたします。  
 基準日 定時株主総会については、1月31日  
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。

公告掲載新聞 日本経済新聞  
 なお、決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社ホームページ(<http://www.morozoff.co.jp/kessan/>)に掲載しております。  
 名義書換代理人 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同事務取扱場所 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 (お問合せ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 ☎通話料無料: 0120-094-777  
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。  
 ☎通話料無料: 0120-244-479(本店証券代行部) 0120-684-479(大阪証券代行部) インターネットホームページ: <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>



## モロゾフ株式会社

六甲アイランドオフィス  
 〒658-0033  
 神戸市東灘区向洋町西五丁目3番地  
 ☎078-822-5000(代表)  
 (登記上の本社  
 神戸市東灘区御影本町六丁目11番19号)

## 1,000株毎に1冊(10枚綴)の割合で優待券を発行いたします。

- 優待券は、毎年1月31日および7月31日現在で、1,000株以上ご所有の株主様(株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主様)に対して発行いたします。
- 優待券は、1月31日割当分は4月下旬に、7月31日割当分は10月上旬にお送りいたします。
- 当社の指定店(平成18年4月1日現在57店舗)および通信販売にて優待券1枚につき税込1,050円(本体価格1,000円)またはそれ未満を単位として現金でお買上げの際、その商品および喫茶代金の20%を割引させていただきます。  
 ※指定店等の詳細は、優待券または当社ホームページをご覧ください。